

きよらの郷 福祉教育の実践紹介

★ゲストティーチャーを招いての出会い・交流・体験の推進と新たな人材発掘

(1) 視覚障がい者への理解・点字学習

小学校4年生の【国語】に「だれもがかかわり合えるように」という単元があり、その授業を活用して実施しました。



(2) 市原小学校（3年生） 社会科の授業

「昔の道具と今の道具の違いについて」 4名の地域（ボランティア）の方々が、昔の道具などを持参して、児童たちに昔の道具の使い方・今の道具との違いなどのお話をしました。



(3) 絵手紙教室（ゲストティーチャー80歳の方）を通して、ありがとう（感謝）の気持ちを育む

内容：手作りの絵手紙をつかって、保護者宛に郵送する。



★疑似体験セットを活かした ふくし学習会の実践

(1) 低学年向けの疑似体験学習

内容：疑似体験学習を通しての高齢者への理解と敬う気持ちを育む。

学習後にお年寄りとのふれあい交流を行う。



(2) 中・高学年向け疑似体験学習

内容：疑似体験学習等を通しての高齢者への理解と敬う気持ちを育む。

学習後に通所介護事業所の利用者との交流



—考察—

交流の前に、事前学習（疑似体験学習・りんどう荘の利用者について）を行い、交流も一方的に歌などの発表を行うのではなく、おじいちゃん・おばあちゃん達へいろんなことをインタビューしようという企画で交流を図った。和やかな雰囲気の中で交流が図られ30分間があったという間に終了した。（会話をすることで 相手を知る）

施設訪問として、このようなインタビュー形式の交流は初めての試みであったが、短い時間ではあったが、子どもたちのコミュニケーション力（自分の考えを表現する）・利用者を知り、利用者の気持ちを共感するという点においてとても良い効果を得ることのできる交流となった。

★車椅子学習

内容：車椅子を利用する人知る、車椅子の使い方（介助方法）、車椅子での外での危険を知る



★防災教育を取り入れた福祉教育の推進（クロスロード）



—考察—

防災訓練（学習）の一つで、災害時（緊急時）の対応・参加者同士の考え方の違いや同じを共有し、実際の災害対応を自らの問題として考える防災訓練です。

（クロスロード 例）

問 あなたは…

山間地の集落の住民

あなたは山あいの集落に住んでいる。今、地震発生。早速避難を始めるが、余震も続いている。土砂災害危険区域に住んでいる近所の足の不自由なひとり暮らしのおばあさんが気になる。まず、おばあさんを見に行く？

YES（見に行く）・NO（見に行かない）

★認知症サポーター養成講座の推進

南小国町においても、認知症サポーターの養成講座の開催を重点項目にあげており、地域の様々な方々への受講を推進しています。

また、講師は地域の人材（キャラバンメイト）を活かして取り組んでいます。



★福祉教育教材の整備と活用推進

- (1) 標準点字盤の整備（18セット購入）
- (2) 点字ロール
- (3) 高齢者疑似体験セット
- (4) 白杖（アイマスク）
- (5) 車椅子
- (6) 介護用機材

